

工業用水道事業の決算概況

●令和6年度決算 （令和6年4月1日～令和7年3月31日）

1. 業務量

区 分	単位	令和6年度	令和5年度	令和4年度
一日契約水量	m ³	15,000	15,000	15,000
年間総配水量	m ³	2,269,959	1,906,231	2,344,251
一日平均配水量	m ³	6,219	5,208	6,423
年間総有収水量 （計量分）	m ³	2,269,959	1,906,231	2,344,251
年間総有収水量 （料金算定分）	m ³	5,475,000	5,490,000	5,475,000
うち増量水量	m ³	0	0	0
有 収 率	%	100.0	100.0	100.0

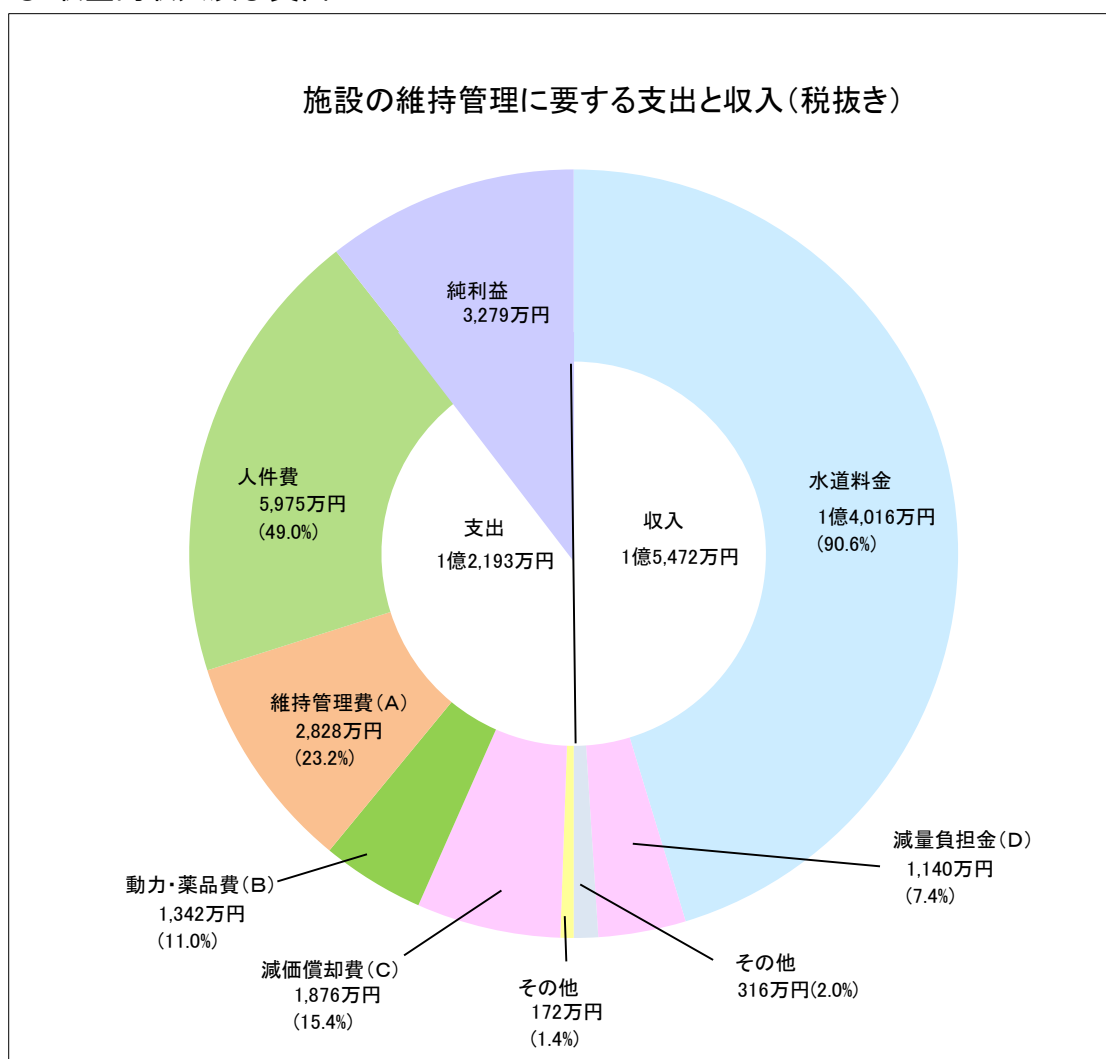
2. 収益的収支の状況(損益計算書)

収益的収支は、工業用水を事業者にお届けする施設の維持管理に必要な支出と、それを賄うために事業者からお支払いいただいた水道料金の収入のことで、損益計算書と同一の内容を示しており、一会計期間(令和6年度は令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)の経営成績を表しています。

令和6年度の収支を前年度と比較すると、収入は、大きな増減はなくほぼ前年度並みで、支出は、動力・薬品費や減価償却費などが増えたことにより増加しました。

結果として、令和6年度決算(税抜)は、収入が1億5,472万円に対して、支出が1億2,193万円となり、差し引きの純利益は3,279万円となりました。

○ 収益的収入及び支出



維持管理費(A): 施設の維持管理費などに要した費用

動力・薬品費(B): 水源地に必要な電気料金、薬品費

減価償却費(C): 水道施設などの固定資産を耐用年数に応じて費用分配した額

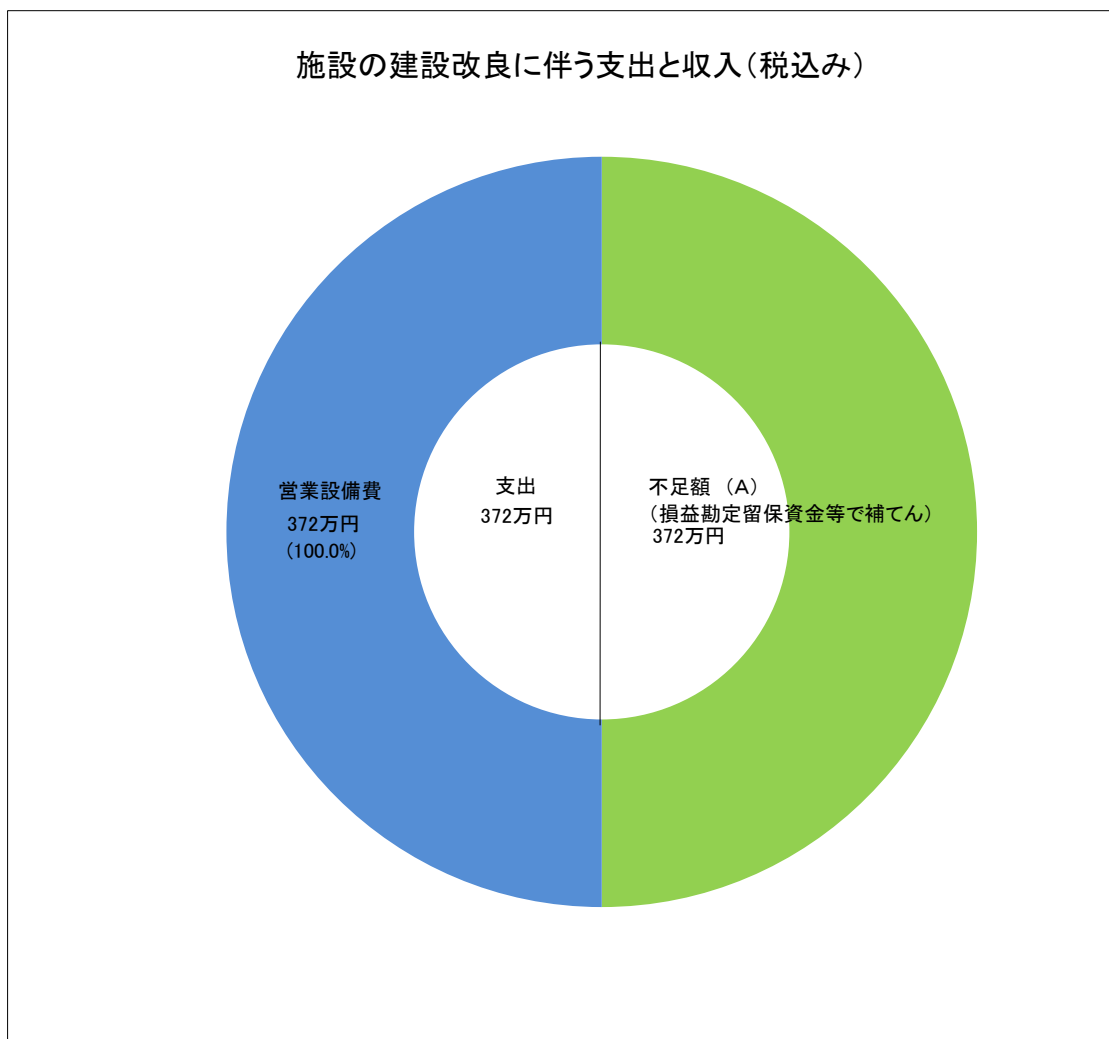
減量負担金(D): 受水量の減量に伴う負担金

3. 資本的収支の状況

資本的収支は、工業用水を事業者にお届けする施設の整備などのために必要な支出と、それに対する収入のことです。

令和6年度決算(税込)は、支出が372万円に対して、収入は0円ですが、不足額372万円は損益勘定留保資金などの内部留保資金で補てんしました。

○ 資本的収入及び支出



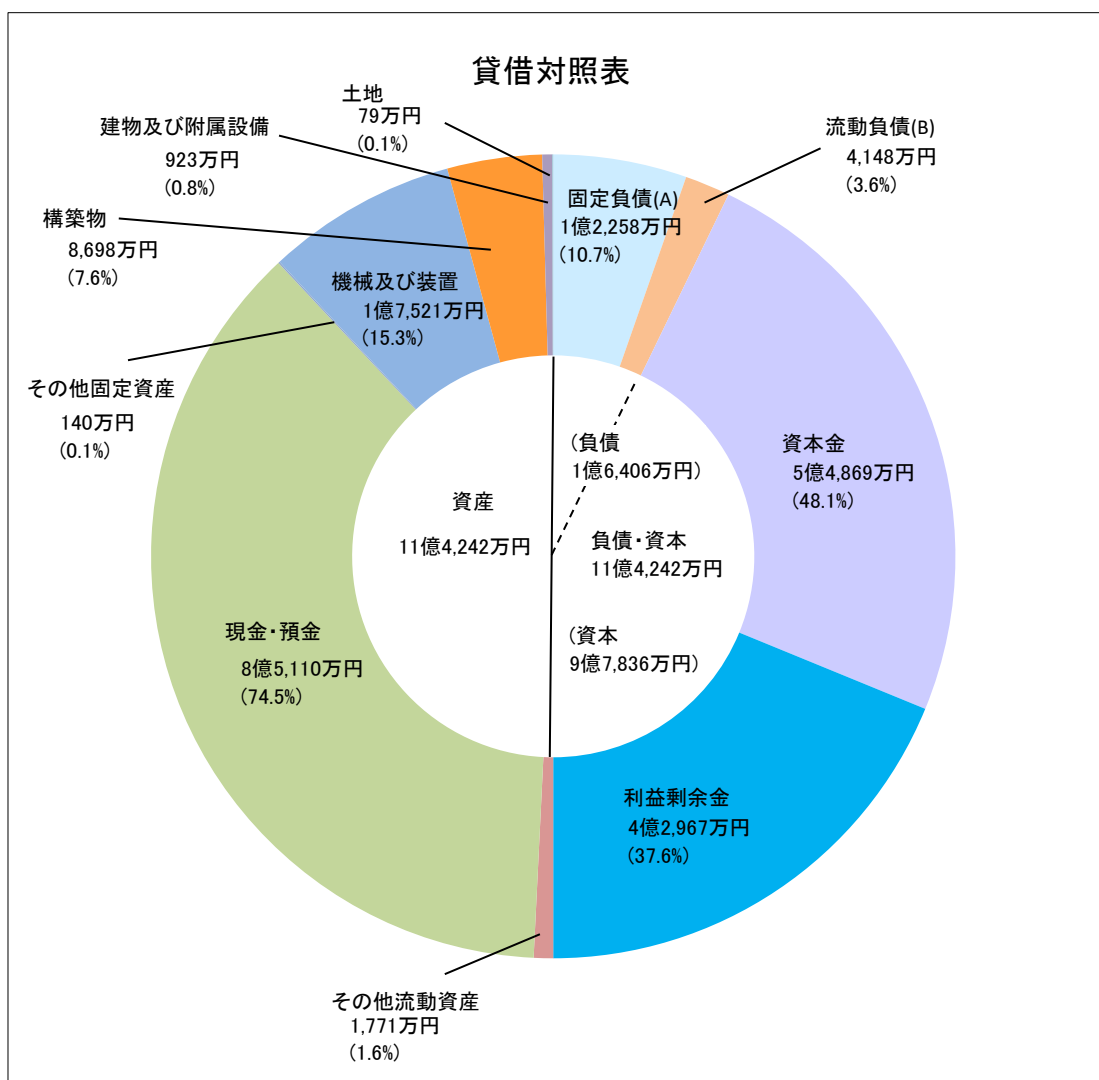
不足額(A): 資金不足の補てん額(減価償却費を主とする内部留保資金)

4. 貸借対照表

貸借対照表は、資産、負債及び資本の状況により、決算日(令和7年3月31日)における財政状態を表すものです。

令和6年度決算では、総資産11億4,242万円に対して負債総額1億6,406万円、資本総額9億7,836万円となりました。

資産の主なものは、現金・預金で、資産全体の約75%を占めています。また、負債・資本では、資本金が全体の約48%、利益剰余金が約38%を占めています。



固定負債(A): 支払期限が1年以上後になる長期借入金や1年を超えて使用される長期性引当金など

流動負債(B): 支払期限が1年以内の借入金、未払金や1年以内に使用される短期性引当金など

●経営の仕組み

本市の工業用水道事業は、昭和39年4月から工事に着手し、取水井5井の築造及び配水管4,103mの埋設、運転管理室の建設により、同年11月から協和醗酵工業防府工場（現在の協和発酵バイオ㈱山口事業所）へ工業用水の供給を開始しました。その後は、電気設備等の全面改良、非常用発電設備、取水地点の追加工事等を施工しました。また、管路内のクリーニング工事を定期的 to 実施し、安定した給水を確保しています。

●財政状況

本市の工業用水道事業は、使用水量に関わらず、契約水量に応じて料金を計算する責任水量制を採用しており、経営の健全性・効率性については、良好な状態にあります。一方で施設全般に老朽化が進んでおり、今後、需要予測及び収支見通しに基づき、適正な投資水準により施設の計画的な改築・更新を行っていくことが必要な状況です。

●工業用水道事業収益及び費用の推移

収益は前年並みの数値となっています。

費用は光熱水費や委託料が増えたことにより前年度に比べ増加しています。

